この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題4　正解　4　難易度　A

基準35
P90～91

【出題内容】

理論（穴埋め）　個別原価計算における仕損の処理

【解　説】

「基準」どおりの内容であるため，確実に正答して欲しかった。

補修

1.　仕損が補修によって回復でき，補修のために補修指図書を発行する場合には，補修指図書に集計された（ア：②**製造原価**）を仕損費とする。完成品⇒「もと」　仕損費⇒「補修」

全部仕損

2.　仕損が補修によって回復できず，代品を製作するために，新たに製造指図書を発行する場合，旧製造指図書の全部が仕損になったときは，（イ：④**旧製造指図書**）に集計された（ア：②**製造原価**）を仕損費とする。　完成品⇒「新」　仕損費⇒「旧」

一部仕損

3.　仕損が補修によって回復できず，代品を製作するために，新たに製造指図書を発行する場合，旧製造指図書の一部が仕損になったときは，（ウ：③**新製造指図書**）に集計された（ア：②**製造原価**）を仕損費とする。　完成品⇒「旧」　仕損費⇒「新」

4.　軽微な仕損については，仕損費を計上しないで，単に仕損品の（エ：⑥**見積売却価額**）又は（オ：⑧**見積利用価額**）を，当該製造指図書に集計された（＊：②**製造原価**）から控除するにとどめることができる。P98

以上より，正解は４となる。

ここに「補修費」という用語は入れられない。（補修ではないから）

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

◎ #50,50-2 補修 完成品⇒#50，仕損費⇒#50-2
◎ #51,51-2 全部仕損 完成品⇒#51-2，仕損費⇒#51
◎ #52,52-2 一部仕損 完成品⇒#52，仕損費⇒#52-2

問題 5　正解 3　難易度 A

【出題内容】

計算　個別原価計算（指図書原価の計算，仕損の処理）P90~91

【解　説】

予定原材料消費価格が製品の種類ごとに異なることに注意し，確実に正答して欲しかった。

1．原価計算表（単位：円）　補修　全部仕損　一部仕損

	#50 (完)	#50-2 (仕損)	#51 (仕損)	#51-2 (完)	#52 (完)	#52-2 (仕損)
月初仕掛品原価	175,800	—	—	—	—	—
原材料費	*1) 112,000	3,200	42,000	126,000	204,000	36,000
加工費	*2) 298,200	11,360	28,400	426,000	241,400	42,600
小計	586,000	14,560	(※) 70,400	552,000	445,400	(※) 78,600
仕損品評価額	—	—	*3) △21,120	—	—	△35,000
仕損費	14,560	△14,560	△49,280	49,280	43,600	△43,600
合計	600,560	0	0	601,280	489,000	0
完成品単位原価	*4) @6,006	—	—	@10,021	@2,876	—
備考	売上原価	仕損費(#50へ)	仕損費(#51-2へ)	売上原価	売上原価	仕損費(#52へ)

計 523,200
計 1,047,960

*1) 予定原材料消費価格800円／kg×実際原材料消費量140kg

*2) (予定消費賃率900円／時間＋予定配賦率520円／時間)×実際直接作業時間210時間

*3) #51の集計額70,400円×30%

*4) #50の合計額600,560円÷Ａ製品完成量100個＝6,005.6円 → 6,006円（四捨五入）

(※)「仕損」という文言
⇒「評価額」！という意識

2．選択肢の正誤判断

1. **誤　り。**　Ａ製品の完成品単位原価は，6,006円である。
2. **誤　り。**　Ｂ製品の完成品単位原価は，10,021円である。
3. **正しい。**　Ｃ製品の完成品単位原価は，2,876円である。
4. **誤　り。**　Ａ製品・Ｂ製品・Ｃ製品の仕損費の合計額は107,440円（＝14,560円＋49,280円＋43,600円）である。
5. **誤　り。**　当月の原価差異総額は，*) 2,600円（有利差異）である。

*) 原価計算表の原材料費合計523,200円＋原価計算表の加工費合計1,047,960円
－当月の実際原価(原材料費528,500円＋直接労務費660,000円
＋製造間接費380,060円)

以上より，正解は３となる。

あわせて，原材料費は予定消費価格，
直接労務費は予定賃率，
製造間接費は，予定配賦率
を用いて計算し，後で実発と比較し，
原価差異を算定している，という流れにも
注目してほしい。

3-2

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 4　正解　4　　難易度　A

【出題内容】

計算　個別原価計算（指図書原価の計算，仕損と作業屑の処理）　P90~91, 98, 100~101

【解　説】

基準操業度に当月予算操業度を用いる点に注意し，確実に正答して欲しかった。

原　価　計　算　表　　（単位：円）

全部仕損　　一部仕損　　→ P98 軽微な仕損 ⇒ 別途の指図書を発行するまでもなく、仕損をリカバーするためのコスト(old補修費)も含めて、84,000円ということ。

	#10 (仕損)	#10-2 (完)	#20 (完)	#20-2 (仕損)	#30
月初仕掛品原価	6,500	—	—	—	—
直接材料費	8,800	30,000	42,000	9,000	60,000
加工費	*1) 12,000	40,000	60,000	16,000	24,000
小計	27,300	70,000	102,000	25,000	84,000
作業くず評価額	—	—	—	—	☆ *2) △6,500
仕損品評価額	㊟ △15,200	—	—	—	㊟ △7,600
仕損費	△12,100	12,100	25,000	△25,000	—
合計	0	**82,100**	**127,000**	0	**69,900**

（注）#10は仕損費として#10-2に賦課する。また，#20-2は仕損費として#20に賦課する。

*1) $\dfrac{\text{当月加工費予算160,000円}}{\text{当月予算操業度(達成可能最大操業度500時間×80%)}}$ ×実際機械運転時間30時間　　@400円/h

*2) 作業くず売却見積単価200円／kg×発生量40kg－処理費用1,500円

以上より，正解は４となる。

㊟「仕損」という文言 ⇒「評価額」！という意識

☆ 作業くずの会計処理（P100~101）
本問は「原則」処理ではない！

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 3　正解 3　難易度 A

【出題内容】

理論（正誤）　個別原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．誤　り。　個別原価計算における直接費は，発生のつど又は定期に整理分類して，これを当該指図書に賦課する。（基準32）

イ．正しい。　（基準36）

ウ．正しい。　（基準31）

エ．誤　り。　旧製造指図書の一部が仕損となったときは，新製造指図書に集計された製造原価を仕損費とする。（基準35(2)2）

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 3　正解 1　難易度 A

【出題内容】

計算　個別原価計算（仕損の会計処理）　P74~75，98~99

(ア) 直接費処理
(イ) 間接費処理

【解　説】　本問は、「一部仕損」

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

1．**仕損費を直接経費として処理した場合の第２製造部門の製造間接費配賦差異（ア）**

予定配賦額*) 1，164，500円－実際発生額979，600円＝**184，900円（有利差異）**

*) 予定配賦率@8，500円×（＃50直接作業時間112時間＋＃50-2直接作業時間25時間）

2．**仕損費を第２製造部門費の予定配賦率に含めた場合の指図書＃50の製造原価（イ）**

原　価　計　算　表

	＃50	＃50-2
直　接　材　料　費	1，800，000円	
第１製造部門直接労務費	*1) 91，200円	省
第２製造部門直接労務費	*2) 145，600円	
第１製造部門製造間接費	*3) 509，200円	
第２製造部門製造間接費	*4) 1，187，200円	略
合　　計	**3，733，200円**	

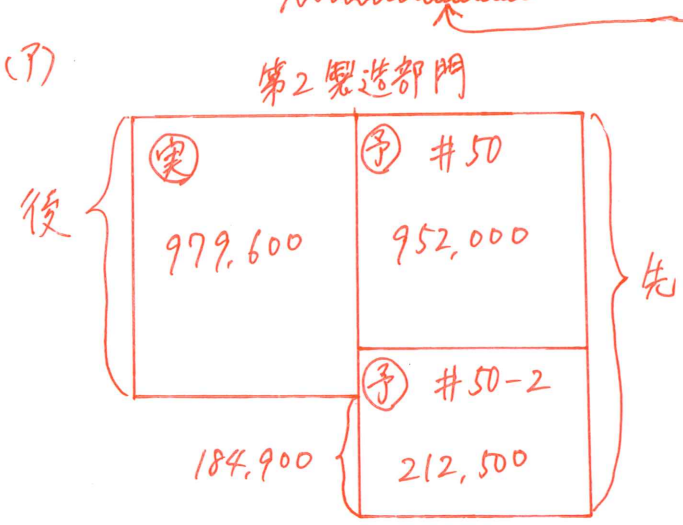
*1) 消費賃率@1，200円×＃50直接作業時間76時間

*2) 消費賃率@1，300円×＃50直接作業時間112時間

*3) 予定配賦率@6，700円×＃50直接作業時間76時間

*4) 予定配賦率@10，600円×＃50直接作業時間112時間

(ア)



P75
計算の迅速化！
貸方の金額が先に決まり、
その金額で原価計算を進める。

(イ) 間接費処理では、「かさ上げされた予定配賦率」を用いる。

P99の勘定連絡からも分かるように、配賦差異の金額は、
製造部門 a/c で把握される（本問では、第1製造部門、第2製造部門）。
指図書（#50，50-2）に集計される製造原価は、実際の確定前に
計算できる（計算の迅速化）。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 3　正解 2　難易度 A

【出題内容】

計算　個別原価計算　P35, 86

「製造間接費は実際配賦」
⇒例外的な処理。cf. P44

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

1．製造間接費の集計

・間接材料費	19, 110円
・間接労務費	*) 39, 000円
・間接経費	233, 220円
合計	291, 330円

*) 賃率1, 560円／時間×(手待時間３時間＋間接作業時間２時間)＋間接工賃金31, 200円

2．製造指図書No. 101の完成品製造原価の計算

・月初仕掛品原価	68, 000円
・直接材料費	*1) 351, 000円
・直接労務費	*2) 374, 400円
・製造間接費	*3) 179, 280円
合計	**972, 680円**

*1) 総平均単価9, 750円／kg×No. 101払出量36kg

*2) 賃率1, 560円／時間×No. 101直接作業時間240時間

*3) $\dfrac{\text{製造間接費合計291, 330円}}{\text{直接作業時間合計}*4)\ 390\text{時間}}$ ×No. 101直接作業時間240時間

*4) No. 101直接作業時間240時間＋No. 102直接作業時間150時間

思考プロセス

個別原価計算の製造原価が問われている。
⇓
直接費は製造指図書に賦課，間接費は製造指図書に配賦。
⇓
間接費をきっちり集計する必要がある。

短答テクニック

作問者の立場で考えると，ひっかけポイントは，月初仕掛品68, 000円の足し忘れ。選択肢間の金額差で68, 000円となっているものは，1と2。⇒1（前の方に置いてあるから飛び付きやすい）がひっかけ。
よって解答は2。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 4　正解 4　難易度 A

【出題内容】

理論（正誤）　個別原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．誤　り。　特定製造指図書を発行する場合，自家用の工具の製作や試作品の原価を算定するために，個別原価計算を利用することは適切である。（基準31）P86脚注

イ．正しい。　（基準34）P62

ウ．正しい。　（基準33(1),(2)）P44

エ．誤　り。　作業くずは，これを総合原価計算の場合に準じて評価し，原則として，その発生部門の部門費から控除する。（基準36）P100

以上より，正しい記述はイ，ウであり，正解は４となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 3　正解 2　難易度 A

【出題内容】

理論（正誤）　個別原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．**正**　（基準35(1)）P90

イ．**誤**　仕損が補修によって回復できず，代品を製作するために新たに製造指図書を発行する場合において

(1) 旧製造指図書の全部が仕損となったときは，旧製造指図書に集計された製造原価を仕損費とする。P91

(2) 旧製造指図書の一部が仕損となったときは，新製造指図書に集計された製造原価を仕損費とする。P91

（基準35(2)）

ウ．**正**　（基準35(3)）P90

エ．**誤**　軽微な仕損については，仕損費を計上しないで，単に仕損品の見積売却価額又は見積利用価額を，当該製造指図書に集計された製造原価から控除するにとどめることができる。（基準35）P90,98

以上より，正しい記述は，ア，ウであり，正解は２となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

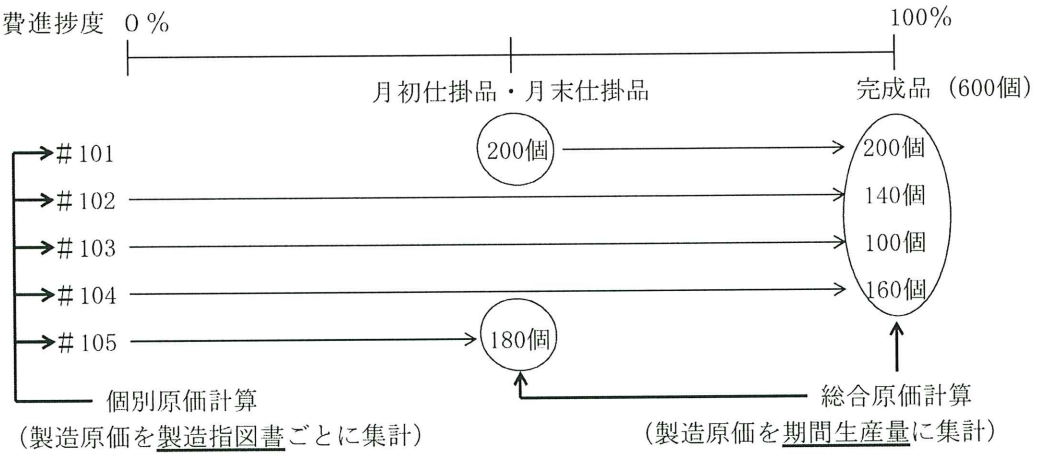
問題 2　正解 1　難易度 A

【出題内容】

計算　個別原価計算（ロット生産に対応する製品原価計算）

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。なお，完成品原価と月末仕掛品原価の合計は等しいので，月末仕掛品原価の差額と完成品原価の差額とは一致する。そこで，計算量の少ない月末仕掛品原価の差額を求めればよい。なお，月初仕掛品の加工費進捗度は不明であるが，平均法なので問題とならない（下図では便宜的に50%としてある）。



1．個別原価計算における月末仕掛品原価（＃105の原価）

直接材料費3,600千円＋加工費{直接労務費400千円×（1＋200%）}＝4,800千円

2．総合原価計算における月末仕掛品原価（＃105の原価）

直接材料費

初＋当　780個	完成　600個
＊1) 15,600千円（@20千円）	月末　180個 → 3,600千円

加　工　費

初＋当　690個	完成　600個
＊3) 24,840千円（@36千円）	月末　＊2) 90個 → 3,240千円

＊1) ［＃101～＃105合計］4,000千円＋2,800千円＋2,000千円＋3,200千円＋3,600千円

＊2) ［＃105］180個×加工費進捗度50%

＊3) ［＃101～＃105］(1,480千円＋1,000千円＋1,600千円＋1,400千円＋2,400千円＋400千円)×（1＋200%）

月末仕掛品原価：直接材料費3,600千円＋加工費3,240千円＝6,840千円

3．完成品原価の差額（月末仕掛品原価の差額）

総合原価計算6,840千円－個別原価計算4,800千円＝2,040千円 → **2,000千円**が最も近い。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 3　正解 2　難易度 A

【出題内容】

理論（正誤）　個別原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．正

（基準31）P86脚注2

イ．誤

個別原価計算における直接費は，発生のつど又は定期に整理分類して，これを当該指図書に賦課する。（基準32）P86脚注3

ウ．正

（基準33(1)）

エ．誤

加工費について部門別計算を行い，部門加工費を各製造指図書に配賦することができる。

（基準34）P62

以上より，正しい記述はア，ウであり，正解は２となる。

問題文では「直接労務費についてのみ」とされているのが誤り。
当然に製造間接費も部門別計算を行う。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 4　正解　2　　難易度　B

【出題内容】

計算　個別原価計算（仕損・作業屑の処理）

【解　説】

仕損品と作業屑の評価額に関する指示が見慣れないパターンであるが，何とか正答して欲しかった。

旧製造指図書（＃101）の全てが仕損となり，新製造指図書（＃101-2）を発行して代品製造を行ったケースなので，旧製造指図書（＃101）に集計した原価をもとに仕損費を算定する。また，仕損品と作業屑の評価額は旧製造指図書の原価から控除する。

全部仕損だから。

1．旧製造指図書の原価　(#101)

直接材料費	A材料	3,000円×80kg	＝240,000円
	B材料	4,500円×30kg	＝135,000
直接労務費	甲部門	2,000円×(58時間＋*) 2時間)	＝120,000
	乙部門	2,400円×24時間	＝ 57,600
製造間接費	甲部門	500円×(58時間＋*) 2時間)	＝ 30,000
	乙部門	720円×24時間	＝ 17,280
合　計			599,880

*) 『基準』では，仕損品を加工の上再利用する場合，仕損品の利用価値から加工費を控除した残額を評価額とすると定めているが，本問では〔**資料**〕2.(1)より，旧製造指図書に集計する。

2．仕損品・作業屑の評価額

仕損品（再生材料）	A材料	3,000円×80kg×(1－20%)	＝192,000円
	B材料	4,500円×30kg×(1－20%)	＝108,000
作業屑	A材料	150円×80kg×20%	＝ 2,400
	B材料	150円×30kg×20%	＝ 900
			303,300円

3．仕損費

旧製造指図書の原価599,880円－仕損品・作業屑の評価額303,300円＝**296,580円**

整理図

Ⓐ 80kg
Ⓑ 30kg
→ 甲 58h, 乙 24h → 仕損 80 → 甲 2h（分離作業）→
Ⓐ 再生材料 64kg 192,000円
Ⓐ 作業くず 16kg 2,400円
Ⓑ 再生材料 24kg 108,000円
Ⓑ 作業くず 6kg 9,000円
② 303,300円

（分離に要する原価）
直労費 4,000円
間労費 1,000円

直材費
240,000円
135,000円

直労費 116,000円
間労費 29,000円
直労費 57,600円
間労費 17,280円

① 599,880円

①－②＝296,580円

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断複製・転載を禁じます。

問題 6　正解 1　難易度 A

【出題内容】

理論（正誤）　個別原価計算，総合原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．正

（基準21）　P84

イ．正

（基準22）　P143, 147

ウ．誤

組別総合原価計算は，異種製品を組別に連続生産する生産形態に適用する。組別総合原価計算にあっては，一期間の製造費用を組直接費と組間接費又は原料費と加工費とに分け，個別原価計算に準じ，組直接費又は原料費は，各組の製品に賦課し，組間接費又は加工費は，適当な配賦基準により各組に配賦する。（基準23）　P142

エ．誤

個別原価計算は，種類を異にする製品を個別的に生産する生産形態に適用する。（基準31）　P84 P86脚注1,2

以上より，正しい記述はア，イであり，正解は１となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 4　正解 3　難易度 C

【出題内容】

計算　個別原価計算（分割納入制，仕損・作業層の会計処理）　P88, 90, 100

【解　説】

推定箇所が多く計算に手数を要するため，後回しにして欲しかった。なお，以下の解説において，推定箇所はカッコで，金額は千円単位で示しているほか，①～⑭は解答までの推定手順を示している。

指図書別原価計算表　（単位：千円）

	＃100	＃200	＃300	＃101	＃201	＃301
前月繰越	(⑤　850)	(⑯ア450)	—	—	—	—
直接材料費	2,200	1,870	(⑨1,375)	(⑩イ825)	2,090	(⑥1,100)
直接労務費	800	(①1,000)	(①　900)	(⑪　400)	(①1,300)	500
製造間接費	(①1,200)	1,500	1,350	(⑪　600)	1,950	(①　750)
小計	(⑤5,050)	(　4,820)	(⑨3,625)	(③1,825)	(　5,340)	2,350
作業層	(②▲150)	—	—	—	—	(②▲240)
仕損品	—	(②▲450)	—	—	—	(②▲300)
仕損費	1,825	(▲4,370)	(⑧1,810)	(③▲1,825)	(　4,370)	(⑥▲1,810)
合計	(④6,725)		(⑦5,435)		(　9,710)	
備考	売上原価	正常仕損費（＃201へ）	売上原価・仕掛品	正常仕損費（＃100へ）	製品	正常仕損費（＃300へ）

仕掛品　（単位：千円）

前月繰越	(⑮1,300)	製品	(　18,435)
直接材料費	9,460	貯蔵品	(⑭1,140)
直接労務費	(⑫4,900)	次月繰越	3,435
製造間接費	(⑫7,350)		
	23,010		23,010

製品　（単位：千円）

仕掛品	(18,435)	売上原価	8,725
		次月繰越	(⑬9,710)
	(18,435)		(　18,435)

時間がかかるだけで、特別な知識が要求される問題ではない。
本番では、このような問題を、いかに避けるかが大事になる。
勘定連絡を含め、個別原価計算の論点が多く含まれた
良問であるので、しっかり復習しておいてほしい。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

① 〔**資料**〕6．より，製造間接費は直接労務費の150％となる。

＃100の製造間接費：直接労務費　800千円×150％＝1,200千円

＃301の製造間接費：直接労務費　500千円×150％＝　750千円

＃200の直接労務費：製造間接費1,500千円÷150％＝1,000千円

＃300の直接労務費：製造間接費1,350千円÷150％＝　900千円

＃201の直接労務費：製造間接費1,950千円÷150％＝1,300千円

② 〔**資料**〕2．～4．より

③ ＃100の仕損費より

④ 〔**資料**〕5．より，製品勘定の売上原価8,725千円は，＃100と＃300(分割納入分)の合計であるため，＃100の合計は差引で計算できる。

製品勘定の売上原価8,725千円－＃300の売上原価[*1] 2,000千円＝6,725千円

[*1] 予定製造単位原価100千円×分割納入分20個

⑤ ＃100の合計6,725千円から差引

⑥ ＃301の小計2,350千円から差引

⑦ 〔**資料**〕5．より，＃300の原価は，分割納入分と仕掛品から構成される。

売上原価(分割納入分)2,000千円＋仕掛品勘定の次月繰越3,435千円＝5,435千円

⑧ ＃301の仕損費より

⑨ ＃300の合計5,435千円から差引

⑩ 仕掛品勘定の直接材料費9,460千円－＃101以外の直接材料費[*2] 8,635千円＝825千円

[*2] (＃100)2,200千円＋(＃200)1,870千円＋(＃300)1,375千円
＋(＃201)2,090千円＋(＃301)1,100千円

⑪ 直接労務費と製造間接費の合計1,000千円(＝小計1,825千円－直接材料費825千円)が判明するため，〔**資料**〕6．を利用してこれを分割する。

$$\text{直接労務費：}1{,}000\text{千円}\times\frac{\text{直接労務費}100\%}{\text{直接労務費}100\%+\text{製造間接費}150\%}=400\text{千円}$$

$$\text{製造間接費：}1{,}000\text{千円}\times\frac{\text{製造間接費}150\%}{\text{直接労務費}100\%+\text{製造間接費}150\%}=600\text{千円}$$

⑫ 指図書別原価計算表の直接労務費および製造間接費の合計

⑬ ＃201の合計より

⑭ 指図書別原価計算表の作業屑および仕損品の合計

⑮ 仕掛品勘定の借方合計から差引

⑯ 仕掛品勘定の前月繰越1,300千円－＃100の前月繰越850千円＝450千円

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 3　正解 5　難易度 A

【出題内容】

理論（正誤）　個別原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．誤

経営の目的とする製品の生産に際してのみでなく，自家用の建物，機械，工具等の製作又は修繕，試験研究，試作，仕損品の補修，仕損による代品の製作等に際しても，これを特定指図書を発行して行なう場合は，個別原価計算の方法によってその原価を算定する。（基準31）P86脚注2

イ．正　P84,85

ウ．誤

原則として，間接費を部門毎に把握し，これを適切な配賦基準により各製品の指図書に配賦する。（基準33(1)）　P62

エ．正　P6「給付」には「サービス」のような無形のものも含まれる。

以上より，正しい記述は，イ，エであり，正解は５となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 4　正解 2　難易度 B

【出題内容】

計算　部門別計算（製造部門費の予定配賦），個別原価計算（仕損の会計処理(間接費処理)）

P74~75　P98~99

【解　説】

正常仕損費を組立部門費に賦課する点に注意して，何とか正答して欲しかった。

1．製造部門費予算と予定配賦率　P74(1)，P98

	塗装部門	組立部門	動力部門
製造間接費	22,500,000円	21,600,000円	5,400,000円
正常仕損費	—	21,780,000	＊1) 22.5円
動力部門費	2,160,000	＊2) 3,240,000	
製造部門費	24,660,000円	46,620,000円	
予定配賦率	986.4円	＊3) 2,590円	

＊1) 動力部門費予算額5,400,000円÷動力予定提供量合計240,000kwh

＊2) 動力部門費予定配賦率22.5円×動力予定提供量144,000kwh

＊3) 組立部門費予算額46,620,000円÷基準操業度18,000時間

組立部門費
部門個別費(実際) 1,800,000
J/O (4枚) (予定配賦)
正常仕損費 3,270,590
4,144,000 (計算の迅速化)
動力部門費配賦差額(実際) 202,500
配賦差異 △1,129,090

2．組立部門費予定配賦額　P75(2)①，P99

組立部門費予定配賦率2,590円×実際操業度1,600時間＝4,144,000円

3．組立部門費実際発生額　P75(2)①，P99

	塗装部門	組立部門	動力部門
製造間接費		1,800,000円	450,000円
正常仕損費	(省略)	＊1) 3,270,590	＊4) 22.5円
動力部門費		＊5) 202,500	
製造部門費		5,273,090円	

＊1) 製造指図書#100-2＊2) 1,473,274円＋製造指図書#200＊3) 1,797,316円

＊2) 直接材料費270,000円＋直接労務費320,000円＋塗装部門費配賦額(986.4円×210時間)＋組立部門費配賦額(2,590円×272時間)－評価額28,350円

＊3) 直接材料費380,000円＋直接労務費550,000円＋塗装部門費配賦額(986.4円×315時間)＋組立部門費配賦額(2,590円×240時間)－評価額65,000円

＊4) 動力部門費実際額450,000円÷動力実際提供量合計20,000kwh

＊5) 動力部門費実際配賦率22.5円×動力実際提供量9,000kwh

短答テクニック

93,350円。これを考慮し忘れた選択肢がひっかけ。
選択肢の金額間差
93,350円は2と3.
考慮し忘れは3。
よって解答は2。

3-15

4．組立部門費配賦差異　P75(2)①，P99

予定配賦額4,144,000円－実際発生額5,273,090円＝**－1,129,090円(不利差異)**